

# 公益財団法人仏教伝道協会

## 令和 8（2026）年度事業計画書

公益財団法人仏教伝道協会は、日本文化の基本でもある慈悲と共生の仏教精神と仏教文化とその学術振興を促進し、現代的理解を弘め、グローバルな啓蒙活動を通して豊かな人間性を育て、より良い社会形成を推進し、もって人類の幸福と世界平和の実現に貢献することを目的とし、その目的を達成するため、定款に定める事業に沿って「令和 8 年度事業計画」を立案する。

### 1. 公益目的事業計画（公 1）

#### 1. 趣旨（目的）まとめの理由

仏教典籍の現代語訳、外国語訳を行いその刊行、普及事業や仏教関連の各種講座、研究会の開催による仏教精神の啓蒙活動、さらに仏教音楽祭などによる仏教文化の興隆と継承活動、また仏教精神、学術、文化の振興に積極的に関わってきた個人、団体への顕彰・助成等は世界中の一人でも多くの人に仏教精神を理解していただき、豊かな人間性を育て、より良い社会形成促進をもって人類の幸福と世界平和の実現という共通の目的達成の手段であることから、下記の 2-1) から 2-3) までは公益事業として一つにまとめている。

#### 2. 事業

##### 2-1) 仏教典籍の現代語訳及び外国語訳による編集とその普及事業

###### 1. 「仏教聖典」現代語訳、外国語訳刊行、頒布事業に関する事項

###### ◇「仏教聖典」各国語訳とその出版について

全世界に仏教思想を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳改訂を進めている。現在、翻訳言語数は 46 言語に及び、翻訳と共に既刊の「仏教聖典」をより現代に即した内容にするための改訂編纂に努めている。令和 5 年度に改訂を終えた『和文仏教聖典』を元に、令和 8 年度は『英文仏教聖典』の改訂準備を進める予定である。

###### ◇「仏教聖典」の普及について

世界の主要ホテルの客室に「仏教聖典」を寄贈常備する活動を行っている。令和 8 年度は国内外のホテルへ約 4,000 冊の寄贈を予定している。また、海外での頒布に資するため、海外協力機関に 12,500 冊を送付する。

仏教系学校および保育施設への聖典普及については継続してその頒布に努め、寄贈 約 19,500 冊、販売 9,900 冊を予定している。また、病院、社会福祉施設、

行刑施設、公共機関、海外協力機関等への寄贈活動も継続して行う。

『さとの知恵を読む』は、仏教系学校および保育施設を中心に約 15,000 冊を寄贈する。

『ブッダのおしえ』は全国の有名観光寺院、ミュージアム、学校等へ 38,000 冊（日本語版 32,000 冊、各国語版 6,000 冊）の寄贈の他、施本として日本語版 4,500 冊の販売を予定している。

#### ◇「仏教聖典」のインド現地印刷・頒布について

令和 7 年度、「仏教聖典」にアクセスしづらい環境にある人びとに「仏教聖典」を届けるため、インドの中でも仏教徒が多いことで知られるマハーラーシュートラ州ナーグプールで州の公用語である『マラーティー語仏教聖典』10,000 冊を現地で印刷、現地で活動する団体等と協力して頒布を行った。令和 8 年度も同様に『マラーティー語仏教聖典』10,000 冊を現地で印刷、ナーグプールと近郊都市バンダラにて寄贈する予定である。インド仏教徒にとって重要な 10 月の改宗記念日の時期を頒布予定とし、職員が頒布活動サポート・状況確認のため訪問する予定である。

#### 2. 英訳大蔵経の刊行、頒布事業に関する事項

欧米をはじめとする英語文化圏に向けての仏教精神の理解と普及のため、「集大成された仏典」である『大正新脩大蔵経』の英訳刊行事業を日本の仏教伝道協会と米国仏教伝道協会の共同事業として進めている。第一期分として全体量の約 10 分の 1 に相当する 139 典籍の翻訳・刊行を進め、これまでに米国仏教伝道協会より、102 典籍 74 巻を刊行すると同時に、既刊典籍の PDF データを HP 上で公開し、英訳大蔵経の利便性・公共性を高めている。令和 8 年度も翻訳を進め、『月燈三昧経』『金剛般若経・地藏菩薩本願経・金光明最勝王経』（合本）等 11 冊の出版と公開、新刊毎に約 110 冊の国内頒布を予定している。

#### ◇「英訳大蔵経」テキスト TEI 化について

TEI (Text Encoding Initiative) とは人文学資料デジタル化の世界基準でテキストのメタデータをインターネットで効率的に共有する規格である。この基準に準拠した英訳大蔵経のデータ作成を引き続き行う。令和 8 年度は既刊の英訳大蔵経の 2,200 ページ分の TEI 化作業を行う予定である。

#### 3. その他仏教書籍の出版、頒布に関する事項

仏教の精神文化の裾野を広げるためカレンダー・仏教書籍を制作、全国の寺院、学校、保育施設等へ頒布する。

#### ◇「一日一訓カレンダー」の普及について

「仏教聖典」や古今の名言から文言を選び、日々の暮らしに仏教を活かすツールとして日めくりの「一日一訓カレンダー」を作成している。

令和8年度は『一日一訓カレンダー-安穩-』として壁掛け版 105,000部を印刷、国内外の寺院を中心に販売、また海外拠点・ホテル・病院・学校などに寄贈する予定である。

◇フォトコンテスト及び写真展の開催について

国内外の方がたに写真を通じて仏教に親しんでもらうため、瑞巖寺・平等院・築地本願寺の写真展で展示する写真32枚を公募する「第13回ほとけ心フォトコンテスト」（賞金総額42万円）を実施する。令和8年度は新たに「WEB部門」を新設し、応募者の若年化を図る。

また令和7年度「第12回ほとけの心フォトコンテスト」入選作品の写真展を、令和8（2026）年4月10日～6月1日に宮城・瑞巖寺、6月4日～9月6日に京都・平等院ミュージアム、9月11日～11月5日に東京・築地本願寺にて開催する。なお、平等院では7月31日（金）に書家 鈴木猛利氏による書道パフォーマンスを開催する。

◇「みちしるべ」出版について

「一日一訓カレンダー」の文言を、より深く理解するための解説書として施本「みちしるべ」を出版している。令和8年度は『みちしるべ-安穩-』を刊行する。執筆者は永田円了氏（曹洞宗僧侶）、名取芳彦氏（真言宗豊山派僧侶）、松本智量氏（浄土真宗本願寺派僧侶）の3名。寺院を中心に約22,700部を頒布する予定である。

## 2-2) 仏教精神と仏教文化とその学術振興の促進に対する助成と表彰事業

### 1. 留学生奨学金制度に関する事項

◇外国人留学生奨学金制度について

奨学生が自国に戻り日本で学んだ仏教精神とその文化を広く伝えていただきたいとの願いから、日本で仏教学研究を希望する外国の学者・研究者または学生に対して、外国人留学生奨学金交付制度を設けている。

令和8年度奨学生の募集は、令和7（2025）年3月1日から国内外の有名大学や研究機関へ留学生奨学金案内書と推薦書を約100通送付して依頼及びホームページで一般公募を行い、15名の申請があった。

令和7（2025）年10月2日に外国人留学生奨学金審査委員会を開催し、次の2名（受給者①、②）が選ばれ、令和8年度外国人留学生奨学金の支給を実施する。

また令和9年度奨学生の募集を行い令和8（2026）年7月末まで申請を受け付け、10月頃に審査を実施する予定である。

令和 8 年度の受給者情報は下記の通り。

受給者① 氏名：Shaashi Ahlawat (シャーシー・アハラワット)  
支給期間：1 年間 (付帯家族 1 名あり)  
国籍：インド  
日本での所属機関：三重大学  
指導教授：久間泰賢教授  
研究内容：「マハーヴィハーラの形成：東インドにおける僧侶と在家者のネットワークと中世仏教の興隆」

受給者② 氏名：Jacob Mortimer (ジェイコブ・モーティマー)  
支給期間：1 年間 (単身)  
国籍：英国  
日本での所属機関：京都大学  
指導教授：出口康夫教授  
研究内容：他心の認識に関するダルマキールティの思想—現代の心の哲学との対話における『サンターナータラシッディ (他心相続成就論)』の研究

◇日本人留学生奨学金制度について

平成 25 年度から日本人の学者や研究者が海外の大学や研究機関にて仏教精神とその文化を学び、将来世界のこの分野で大きく貢献してくれることを期待して日本人留学生奨学金制度を設けている。

令和 8 年度奨学生の募集は、令和 7 (2025) 年 3 月 1 日から国内外の有名大学や研究機関へ留学生奨学金案内書と PR ポスターを約 220 通送付。ホームページで一般公募を行い、3 名の申請があった。

令和 7 (2025) 年 10 月 2 日に日本人留学生奨学金審査委員会を開催し、次の 2 名(受給者①、②)が選ばれ、令和 8 年度日本人留学生奨学金の支給を実施する。また令和 9 年度奨学生の募集を行い令和 8(2026)年 7 月末まで申請を受け付け、10 月頃審査を実施する予定である。

令和 8 年度の受給者情報は下記の通り。

受給者① 氏名：小谷昂久 (こたに あきひさ)  
支給期間：3 年間 (単身)  
渡航先：ネパール・カトマンズ大学ランジュンイエシェ研究所  
渡航先での指導教授：Dr. Julia Stenzel (ジュリア・ステンツェル)  
研究内容：チベットにおける小乗と大乘の関係

受給者② 氏名：横山啓人 (よこやま あきと)  
支給期間：6 ヶ月間 (単身)

渡航先：オーストリア科学アカデミーアジア文化・思想研究所

渡航先での指導教授：Dr. Patrick McAlliste（パトリック・マカリスト）

研究内容：プラジュニャーカラグプタ著『量評釈莊嚴』 「量成就」章における部分全体論の研究

#### ◇「奨学金留学生交流会」開催について

例年、来日中の外国人奨学生およびその指導教授と、これから留学するまたは既に留学を終え帰国した日本人奨学生を招き、互いの研究内容を共有し、交流を深めていただくための「奨学金留学生交流会」を開催している。令和8年度も開催を予定する。

### 2. 顕彰事業に関する事項

仏教伝道文化賞は、国内外を問わず、仏教精神、仏教文化、仏教学術及び布教伝道など仏教に関わる幅広い分野で貢献された方がたの功績を讃え、また今後のさらなる活躍を願い表彰する賞として昭和42(1967)年に創設された。

長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった方または団体に「仏教伝道文化賞（賞金500万円）」を、また今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる方または団体に「仏教伝道文化賞 沼田奨励賞（賞金300万円）」を授与する。

令和8年度は4月中旬より国内外の仏教各宗派、大学等の教育機関、研究機関、仏教団体、報道機関、政府機関及び専門家等に推薦依頼状を発送、「仏教伝道文化賞」及び「仏教伝道文化賞 沼田奨励賞」の推薦を受け、7月下旬に仏教伝道文化賞選定委員会を開催し、令和8年度の受賞者を決定する。なお贈呈式は10月中旬に挙行を予定している。

### 3. 助成事業に関する事項

当協会の事業目的と同じ目的を持ち、その活動を積極的に展開している個人及び団体を選定し、当協会の目的とする事業実現のため国内外で助成支援を行う。助成にあたっては、外部有識者や専門家からなる助成金審査委員会のもと、公正な審査を経て選定、助成する。

令和8年度助成対象 {令和7年度募集分、交付時期（令和8(2026)年4月～令和9(2027)年3月} を審査するため、令和8(2026)年1月13日に助成金審査委員会を開催し、審議の結果、下記の団体にそれぞれ助成金を交付することが決定し、国内総額で14,500,000円、海外はNT\$250,000、THB100,000の助成を実施する。

A. 沼田仏教講座新規開設及び運営維持助成金  
申請無し。

B. 海外協力機関活動支援助成金

団体名	申請事業名称
BDK Taiwan (台湾仏教伝道協会)	仏教伝道協会の出版物の頒布
BDK Thailand (タイ仏教伝道協会)	仏教聖典の頒布活動

C. 団体支援助成金

団体名	申請事業名称
日本印度学仏教学会	日本印度学仏教学会における、情報化対応を介した国際的学术交流及び文化貢献の促進事業
特定非営利活動法人鎌倉てらこや	鎌倉てらこやー大学・寺社・行政・市民ボランティアの協働による地域コミュニティ再興事業ー
公益財団法人中村元東方研究所	公益財団法人として研究調査事業・研究助成事業・顕彰事業・普及事業

D. 事業支援助成金 - D-1. 仏教精神・文化普及活動及び人道支援活動

団体名	申請事業名称
公益財団法人全国教誨師連盟	教誨師研修事業
一般財団法人 お寺と教会の親なきあと相談室	「親なきあと」問題を解決するためにお寺と教会を活用した「地域コミュニティ」の形成プロジェクト
島根県仏教会	島根県仏教会創立70周年記念事業「慈〜いつくしみ」
一般社団法人デスフェス	Death フェス 2026 スペシャルデー「仏教から”生と死”を感じる一日」
出雲観音霊場札所会	出雲観音霊場札所会設立50周年記念事業
高野山真言宗生蓮寺	お釈迦様の蓮を咲かせる冒険(植樹部門) ※令和8年度から令和11年度まで4年間の複数年交付。

D. 事業支援助成金 - D-2. 仏教学術振興活動

団体名	申請事業名称
龍谷大学 龍谷ミュージアム	2026年度 春季特別展「京都・真如堂の名宝—お山と都の念仏信仰」
日本仏教看護・ビハーラ学会 第22回年次大会実行委員会	日本仏教看護・ビハーラ学会 第22回年次大会
モンゴル仏教文化研究会	国際シンポジウム「モンゴル仏教の過去・現在・未来—直面する諸課題」

D. 事業支援助成金 - D-3. 仏教文化財保護活動

交付対象無し。

助成金分割交付分

団体名	申請事業名称
東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻 保存修復彫刻 研究室	調査・修復・模刻を通じた仏教彫刻文化財を守る人材育成事業 ※令和6年度から令和8年度まで3年間の複数年交付。

2-3) 仏教精神とその文化興隆にかかわる啓蒙活動と支援事業

1. 啓蒙活動としての仏教関連講座、セミナー、研究会等の運営に関する事項

◇仏教を英語で学ぶ会について

英語を通して仏教精神を学ぶことを目的とし、平成23年度より「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」を開講。平成28年度より外国人観光客の増加に向けて寺院等で英語によるガイドができる人材育成に貢献することを目的とした「Buddhist English Guide プログラム」を開始。令和5年度からは「仏教を英語で学ぶ会」として、広く英語学習者もしくは仏教に興味がある方に向けて3名の講師によりそれぞれ異なるテーマで講座を開講している。令和8年度は古代から近代までの日本仏教の流れを通して学ぶことができる仏教英語講座を目指し、下記のテーマと講師で講座を開講する。

日程・テーマ	講師
PART 1 古代の日本仏教 第1回 4月23日(木) 第2回 5月14日(木) 第3回 6月18日(木)	トマス・ニューホル 氏 (東京大学講師)
PART 2 中世の日本仏教 第1回 7月16日(木) 第2回 8月20日(木) 第3回 9月24日(木)	マイケル・コンウェイ 氏 (大谷大学准教授)
PART 3 近代の日本仏教 第1回 10月29日(木) 第2回 11月26日(木) 第3回 12月17日(木)	亀山光明 氏 (武蔵野大学講師)

(定員 会場 60名、オンライン 120名)

(参加費 会場参加・オンライン参加とも通年 13,500円(税込・全9回分)、

各1パートのみ 6,000円(税込、各パート3回分)

(講義時間 18:30~20:00の90分)

◇実践布教研究会について

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶たちが自ら体験することによって、聞・思・修、一体となった仏道を体験していただき、仏教の現代的理解の促進、ならびに各宗派の僧侶間の交流を推進すべく、各宗派の本山を会場に毎年1回2泊3日にて実践布教研究会を開催しており、現在までにその開催実績は53回を数える。

令和8年度は5月20日(水)から5月22日(金)まで、第54回実践布教研究会として浄土宗総本山知恩院を会場に「法然上人の仏道～不断念仏に学ぶ」をテーマに開催する。

◇仏教を生活に活かす会について

仏教精神を日常生活に活かすことを目的として、「仏教聖典」を基本教材に、「仏教聖典を生活に活かす会」を開講してきたが、令和7年度は休会とした。

令和8年度より「仏教を広く、気軽に」をコンセプトに、講座名を「仏教を生活に活かす会」にあらため、仏教精神や文化を日々の生活に取り入れてもらうための講座を開講する。令和8年度の開講予定は次の通り。

日程・テーマ	講師
声に出して読む『般若心経』 4月22日(水)、10月16日(金) 参加費2,000円	藤尾聡允氏 (臨済宗建長寺派独園寺住職)
こころの終活ワークショップ 6月25日(木)、12月15日(火) 参加費2,000円	大島慎也氏 (浄土宗龍興院副住職)
手作りお香ワークショップ 9月15日(火)、2028年3月16日(火) 参加費5,000円	片山齊氏 (薫物屋香楽(株)みやび取締役)

(定員 会場のみ20名)

(講義時間 13:30～15:00の90分)

◇仏教聖典を経営に活かす会について

仏教精神を学び事業経営や仕事に活かし、また人生の道標の一助とすることを目的とし、「仏教聖典」を基本教材に、「仏教聖典を経営に活かす会」を開講してきたが、令和7年度に続き、令和8年度も休会する。

◇BDK 仏教ヨガ講座の開催について

平成 27 年度より、健康や美容という視点に焦点が当てられていたヨガを、釈尊が実践していた修行体系（呼吸法）の一つであることに戻り、法話を聞きヨガを行う「仏教ヨガ講座」を開催してきた。

令和 3 年度からは高野山真言宗僧侶でもあるヨガインストラクターの MOMO 氏を講師とし、法話を聞きヨガと瞑想を実践する講座を毎月 1 回（原則第 1 水曜日、午後 7 時 00 分から午後 8 時 30 分まで）開催。令和 8 年度も会場とオンラインを同時開催にて継続する。（参加費：会場 1,500 円・オンライン 1,000 円）

◇「イチから学ぶ日本の仏教」について

平成 28 年度より、仏教の基本的な知識に触れることの少ない方を対象とし、日本仏教の各宗派の基本的な教義や宗祖について学ぶ、仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」を開催している。

この数年は首都圏以外の方へ広く講座参加を促すため、令和 5 年度は大阪、令和 6 年度は名古屋、令和 7 年度は仙台と、首都圏以外の主要都市で開催してきた。令和 8 年度は東京開催とし、全 8 回を仏教伝道センタービルにて開催する。令和 8 年度の開講予定は次の通り。

開催日程	テーマ	講師名
4 月 21 日（火）	天台宗	横溝常之 氏（天台宗 寶泉寺 住職）
5 月 26 日（火）	真言宗	田中宣照 氏（高野山真言宗 西室院 住職）
6 月 23 日（火）	浄土宗	石田一裕 氏（浄土宗 光明寺 住職）
7 月 28 日（火）	浄土真宗	杉浦道雄 氏（真宗大谷派 称名寺 住職）
8 月 25 日（火）	時宗	渋谷真之 氏（時宗 長徳寺 住職）
9 月 29 日（火）	日蓮宗	久住謙昭 氏（日蓮宗 妙法寺 住職）
10 月 27 日（火）	臨済宗	星 大晃 氏（臨済宗妙心寺派 善應寺 住職）
11 月 24 日（火）	曹洞宗	菅原研州 氏（愛知学院大学 教授）

（定員 会場 50 名、オンライン 100 名）

（参加費 会場参加・オンライン参加とも 2,000 円、通年 14,000 円）

（講義時間 18:30～20:30 の 120 分）

◇シンポジウム「お寺を通して歴史を学ぶ」について

日本は古代や中世の歴史資料が最も豊富に伝わる国の一つとして知られており、その多くは寺院伝来のものであり、こうした史料を通して、仏教寺院のあゆんだ歴史を知ることが出来る。本シンポジウムでは、前近代の歴史資料について日本有数の研究機関である東京大学史料編纂所より講師 2 名（遠藤基郎教授・菊地大樹教授）を招き、最新の仏教史像を学ぶとともに、寺院伝来の歴史資料の豊かさについて知る機会を提供する。（開催時期未定）

（定員 会場 60 名、オンライン 120 名）

（参加費 会場参加・オンライン参加とも 2,000 円（税込）

（講義時間 14:00～16:30 の 150 分）

◇FM 大阪ラジオ企画について

若年層へのアプローチと仏教伝道協会の知名度の拡大をはかるため、関西圏をカバーする FM 大阪にて、平成 30 年度より放送を開始したラジオ番組「笑い飯 哲夫のサタデーナイト仏教」（毎週土曜日深夜 24:15 から 15 分間）を令和 8 年度も継続する。月替わりで僧侶（偶数月）と著名人（奇数月）をゲストに迎え、仏教を広く、わかりやすく伝える。

◇「輝け！お寺の掲示板大賞 2026」の開催について

お寺の掲示板の標語の写真を撮影し、X（旧 Twitter）や Instagram に投稿してもらい、受賞作品を決定する「輝け！お寺の掲示板大賞 2026」を開催する。第 9 回目となる令和 8 年度も仏教メディアなどの協力を得ながら、7 月 1 日から 9 月 30 日まで作品を募集し、12 月 5 日に受賞作品を発表する。

◇「こころを豊かにする精進料理教室～食を通じて仏教を学ぶ」開催について

令和 5 年度より食の観点よりいのちの大切さを再認し、仏教に親しんでいただく講座として季節毎各宗派の講師を招き開催した「こころを豊かにする精進料理教室～食を通じて仏教を学ぶ」を令和 8 年度も内容を更新して実施予定。受講者に講師監修の精進料理レシピを調理デモンストレーション付で紹介するとともに、講師による食事作法の説明や椅子坐禅、精進料理についての法話、創作精進料理の実食体験を通じて、仏教の教えの一端に触れていただく機会を提供する。（開催時期等詳細未定）。

◇願いの一字コンテストについて

令和 9 年新年の希望の一字を公募し、揮毫する「願いの一字コンテスト 2027」を開催する。漢字の公募期間は令和 8 年 4 月 10 日～12 月 15 日。発表は、令和 9 年 1 月 4 日（月）大本山増上寺（港区）にて行い、書家 鈴木猛利氏が揮毫する。揮毫した書は、掛け軸に表装し保管する。

◇その他の啓蒙活動について

仏教精神をより身近に感じてもらうため、心と体の健康に着目し、スポーツを通じて仏教に親しんでもらう企画や動画をはじめとするデジタルコンテンツの配信などを行い、幅広い層に仏教理解を促進するための企画を検討、推進する。

◇広報活動について

各開催講座やイベント等の情報はホームページ、LINE や Facebook、Instagram 等の SNS、チラシなどを利用し、広く一般に情報発信を行い、多くの方へ受益の機会を開くものとする。

## 2. 仏教音楽の現代化とその普及事業について

伝統的宗教音楽を継承すると同時に、仏教音楽の現代化を進め、広く仏教精神とその文化に親しんでいただくことを目指し、仏教音楽にちなんだコンサートや、新しい仏教音楽の作品募集などを行っている。

令和8年度は、2025年11月、築地本願寺（中央区）に新調したパイプオルガン（イタリア・ザニン社製）を公益的に活用するため、パイプオルガンを一般開放する「パイプオルガン・オープンデー」を設ける。オルガンの試奏や東京藝術大学在校生及び卒業生によるミニライブ、夏休み家族向け企画として、パイプオルガンの構造を学ぶワークショップ（「お寺の楽器探検隊」／講師：河合楽器製作所 西岡誠一氏）を開催する予定。

また、今後の仏教音楽祭の企画等について審議するため、音楽普及委員会を1回開催する。

## 3. 貸し会議室事業に関する事項

### ◇公益目的事業としての施設の貸与事業について

仏教伝道センタービルの施設を有効活用し、公益目的事業として施設の貸与事業を行う。当協会が公益財団移行後に公益目的として掲げる“豊かな人間性を育て、より良い社会の形成を促進しもって人類の幸福と世界平和の実現”に貢献する事を目的とした会議等を開催する公益法人、社会福祉団体、NPO法人、市民団体等を優先し、通常（一般）は3ヶ月前からの予約受付に対し、6ヶ月前から予約を受け付け、通常（一般）価格の半額で貸出し、多くの公益目的事業を側面から支援することによって、社会貢献する。

## II. 収益事業計画（収1）

### ◆収益事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設における公益事業目的で当面使用予定のない空きスペースならびに空き時間を一般に向けて貸与する事業を令和8年度も継続して行い、利益のうち50%を公益目的事業に寄付する予定である。

## III. その他

本事業計画に掲げるもののほか、この法人の目的達成のため、必要と認める事業を行う。

以 上